国東半島の南部に位置して，杵築城は昔の武家屋敷に囲まれていて，土塀とゆるやかな丘陵地帯に伸びる石畳がある。城は1394年までさかのぼり，木付頼直(不詳)がその地方を支配していた。彼の一族が200年の戦国時代が終わりになる1600年まで支配していた。そして細川忠興が徳川氏によってその半島を与えられた。杵築城は19世紀後半まで国東半島の政治的権力の中心として役割を果たしてきた。1970年に再建され，その城は日本で最も小さい城の一つで知られている。